

笑顔が紡ぐ ミライのぬくもり 東奥信用金庫

ごあいさつ

日頃皆さまには、東奥信用金庫をご愛顧いただき厚く御礼申し上げます。
当金庫に対する皆さま方のご理解を深めていただくために、本年もディスクローチャー誌「LOOK UP とうしん 2024」を作成いたしました。
本誌を通じて当金庫を一層ご理解いただき、ご信頼を賜れば幸いに存じます。

2023年度の日本経済全体の景況は、個人消費には持ち直しに足踏みがみられるものの、全体としては緩やかに回復しております。先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待されます。ただし、世界的な金融引締めに伴う影響や中国経済の先行き懸念等、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっております。また、物価上昇、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要があります。さらに、令和6年能登半島地震の経済に与える影響に十分留意する必要があります。

青森県内の景気は、住宅投資は弱めの動きとなっているものの、設備投資は高水準で推移しており、個人消費も回復しております。一方、当津軽地方に目を向けますと、新型コロナの5類移行等により景気回復を実感する企業はコロナ禍前の水準を上回っているものの、エネルギー価格や原材料・仕入価格の高止まりが経営の不安材料となっている様子が窺え、今後も動向を注視していく必要があります。

このような環境の中、当金庫では長期経営計画「とうしん『変革への挑戦』2021-2023」の最終年度にあたり、金融仲介機能の発揮のみならず、広くお客さまの課題解決を徹底的に行い、地域社会全体の成長と幸せづくりに貢献することを目指して活動してまいりました。

その結果、業務純益が4億36百万円、当期純利益は3億72百万円の業績を収めることができました。これも偏に会員を始めとした地域の皆さまのご支援の賜物と厚く御礼申し上げます。

2024年度は、新長期経営計画（3カ年計画）「Step up 100th」の初年度であります。2027年度に迎える創立100周年に向け、さらにはその先100年続く確かな基盤を確立すべく、現在を第二創業期と位置づけ、健全なる経営と相互扶助の精神をもって、地域の繁栄と産業の育成に奉仕し、役職員渾然一体となって、明るい職場、明るい家庭、明るい社会の建設に貢献してまいります。

今後とも一層のご理解、ご支援を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

2024年7月

東奥信用金庫

理事長 小中雅彦

